

塩竈市観光振興ビジョン かわら版 vol. 8

観光客旅行環境の快適化とまちのおもてなし向上へ

コロナウイルス感染症拡大により大きな影響を受けた観光業界。コロナ対策事業を行う一方で、令和2年度は、感染拡大収束後に向けて、外国人観光客を含む旅行環境の快適化、まちのおもてなし態勢の向上をテーマに、受入態勢整備等を行いましたのでご紹介します。

1 案内サインの調査と整備

はじめに、観光導線上の調査を行いました。現状のサインが十分かどうか、専門家の方や外国人専門家の方と市内を歩き、必要箇所を確認しました。調査結果をもとに優先順位をつけ、場所や内容に応じ、デザインの統一感や視認性、必要な言語の種類、看板の大きさなどを個別に検討し、日本語と英語の併記や5か国語（英語・簡体字・繁体字・韓国語・タイ語）の標記、またはQRコードにより補足するサインを設置。約90か所に説明板や案内板を設置しました。



QRコードで外国語を補足



英語併記に張り替え



観光導線を英語併記に



説明板を英語併記に



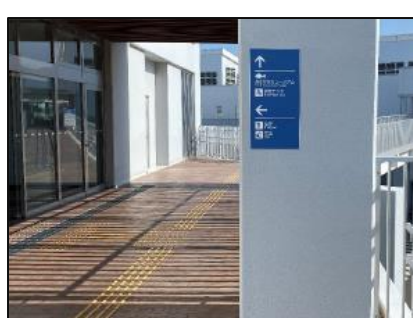
塩竈神社駐車場にQR付きの全体図



マリングート内導線を英語併記に



各栈橋に英語併記時刻表



魚市場導線を英語併記で明確に



道路上の観光導線

2 魚市場臨場感・魅力アップ

塩竈市魚市場では、入館導線や展示物の表示のほか、「せり」の音声が見学通路でもよく聞こえるよう、スピーカーやアンテナを設置しました。ガラス越しでもせりの活気を感じられる臨場感を演出します。また、パンフレットをリニューアルし、英語併記にしました。魚市場の一日や、まぐろの種類、塩竈の水産業が学べる内容になっています。



魚市場パンフレット
(英語併記)

3 トイレ洋式化

西町公衆トイレ、海岸通公衆トイレ、ブルーセンター、マリンゲート塩釜の一部のトイレを洋式化し、暖房便座や温水洗浄便座の導入、ベビーチェアの設置を含む「ゆとり化」も行い、多様な方々にとって快適なトイレ空間整備を行いました。

4 まちのおもてなし態勢づくり

(1)まち歩きガイド研修会(3/24)

今年は、まち歩きガイドの先進地「長崎さるく(「さるく」は方言で「ぶらぶら歩く」の意)」でガイド活動を行う田中潤介さんと川良真理さんをオンラインで結び、講義を受けました。

長崎では、「さるく」の参加者は半分が観光客、半分は地元の人。まち歩きネタは日常の中にあり、ストーリーとともに伝えること。「異日常」や地域らしさを五感を使って見つけること、自分が楽しむことなど、まち歩きガイド活動に大切なことを学びました。



研修会

(2)インバウンド受入研修(1/26、2/3、2/16)

塩竈に来る外国人観光客の受入態勢づくりとして、2つのことを目標に小売店などで、個別研修を行いました。一つは、観光施設の見学だけでなく、まちなかを歩いて気軽にお店にも入ってもらうこと、もう一つは、お店側も、言葉が通じないことを恐れずコミュニケーションしてもらうことです。外国人観光客から見ると、何屋さんかわかりにくいと入りにくくなったり、聞けば受けられるサービスが表示されていなかったりすることがあります。それらを表示物にし、「見える化」することで、言語によるコミュニケーションが難しくても伝えられることがあります。個別研修では、SNSでの効果的なハッシュタグの使い方や実践的な単語などを学び、お店の方々は積極的に質問したりメモを取ったりしていました。



(4)翻訳機の配備

外国人観光客の来訪が見込まれる市の施設に翻訳機を配備します。これまで一部使用していましたが、翻訳機では語学学習もできるので外国人観光客の再来に向けて活用していきます。



(2)日本酒ペアリングセミナー(2/26,3/3)

講師：宮城県産業技術総合センター食品バイオ技術部総括研究員
橋本建哉 氏

外国人を含む観光客に日本酒と料理の相性を理解した上で、塩竈の食をさらに楽しんでもらおうと、飲食店関係者や日本酒関係者を対象とした研修会を開催しました。日本酒にも種類が多数ありますが、大きく分けて酸味とうまみと甘みのバランスがお酒によって異なっています。それらを生ものや煮物、揚げ物などと併せて、理論的になぜ合うのか、合わないのかという理屈を実際に味で体験しました。日本酒を販売する人や、料理を提供する人が知ることによって、さらに食を楽しむことができる仕掛けになります。



仙台・松島復興観光拠点都市圏DMOと塩竈市の取組

松島湾と空港エリア6市3町をフィールドとする仙台・松島DMOは、塩竈市で地域と連携しさまざまな事業を行っていますのでその取組状況をお知らせします。

滞在コンテンツ充実・強化事業(商品造成)

浦戸諸島のみちのく潮風トレイルをベースとした、「暮らしびり」に触れる島あるきや、まち歩きと日本酒&日本茶テイastingを楽しむオンラインツアーの商品造成。

受入環境整備事業

○宮城酒蔵ツーリズム振興基盤強化事業

日本酒研修会の開催、酒蔵ハンズオン支援など。

その他、塩竈で展開された事業

○松島湾周遊体験観光地整備事業(宮城県地方創生事業)

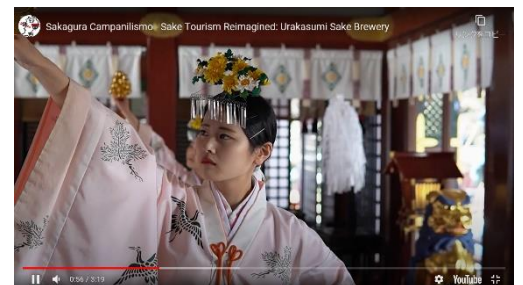
松島湾エリアとして本市では浦戸地区で展開中。多様な関係者と連携し地域課題に対応した持続可能な周遊型観光コンテンツ開発とプロモーションに取り組む。

○国税庁酒蔵ツーリズム推進事業

塩竈の酒蔵において、情報発信やイベント、専門家アドバイス商品造成などさまざまなアプローチからコンテンツとしての磨き上げを行い、ポテンシャルを引き出した。

○東北運輸局ローカルプレミアムバーホッピング事業

ナイトタイムエコノミーの推進をめざし、特別感があり回遊性あるコンテンツとして商品造成と人材育成を目的としたモニターツアーを開催した。



酒蔵ツーリズムプロモーション動画より



←各種旅行商品やプロモーション動画はこちら

浦戸諸島の魅力を新たに発信しています

浦戸諸島の魅力を凝縮したPR動画を制作

観光振興ビジョン推進委員会では、浦戸の魅力について現地調査や意見交換を進めてきましたが、浦戸諸島の魅力を凝縮したPR動画を4島それぞれに制作しました。今後、市HPやyoutubeで公開、また、動画CMとして、首都圏や東北エリアなど、時期や対象を見定めて効果的に発信していきます。



「浦戸諸島の歩き方」を発行しました

観光振興ビジョン推進委員会では、浦戸の魅力について現地調査や意見交換を進めてきましたが、来島する方々にもっと浦戸を楽しんでいただくため「浦戸の歩き方」を発行しました。これは既存の「島歩きマップ」を補完するもので、同マップに挟まれています。旅の準備に、また船の中での読み物としてぜひご利用ください。



東北デスティネーションキャンペーン開催中

4月から9月まで、東北6県で観光キャンペーンがスタートしています。コロナ禍の影響を受け、関連イベントが中止や延期となっていますが、宮城寿司海道塩竈地区推進協議会では、特別企画として、限定メニューを提供中です。詳しくは、観光物産協会HPに掲載しています。感染対策を行いながら、塩竈の寿司をお楽しみください。



令和2年度塩竈市観光振興ビジョン推進委員会(SKV)活動記録

- | | | |
|-----|-------|----------------------------|
| 第1回 | 7/21 | 「今年度の活動について」道路占用許可基準緩和の勉強会 |
| 第2回 | 9/17 | 「本町まち研との意見交換会」 |
| 第3回 | 9/26 | 「門前町での事業提案を受けての検討」 |
| 第4回 | 11/20 | 臨時会議 |
| 第5回 | 3/26 | 「今後の活動について意見交換」 |
| | 3/31 | 「浦戸諸島の歩き方」発行 |

発行：塩竈市観光交流課

TEL022-364-1165